



稲刈り後の田んぼに、麦かナタネを播種するんだけど、どうせならくねくねとウネを作ってみようかと、うちのチビ(小5)にトラクターをまかせてみました。

見識ではありません。しかし、高萩のように、議会が率先して「地産地消」をすすめる決意を示すという選択もあるわけです。そして、そのちがいに議会の志の高い低いが見えてくると断じてしまっては挑発かなあ。

じつは、きょう4日、請願の提出者として根本さんが東海村の議会に出席要請を受けています。いま10時30分、ちょうど発言の真っ最中でしょうか。さてさて顛末は…

## 「地産地消」で請願・陳情 議会の志の高い低い 中間報告

この間、私たち県北農民センターでは、市町村議会に、下記のような趣旨の「地産地消宣言」を求める陳情・請願を提出する取り組みをすすめてきました。日立の皆さんには署名にもご協力をいただきました。

その審議結果の報告文書が、各議会事務局から続々と届いています。これまでのところ、採択が高萩市、継続審査が北茨城、常陸太田、常陸大宮の各市、日立市のみ不採択とされています。

【請願趣旨】日本の農業、そして林業や水産業は、担い手不足、高齢化などによって年々力を失い、地域経済に大きな影を落としています。

現在、我が国は国民の食料の6割は外国産に頼り、輸入農畜産物の急増にともなって、農薬の残留や遺伝子組み換え食品の氾濫、鳥インフルエンザ、BSE問題など、国民の食に対する不安が高まっています。また、日本型食生活の崩れによる生活習慣病の急増が指摘されているところです。

こうしたなかで、政府の調査によっても、国民の8割以上が「国内産を食べたい」という結果が示され、そうした世論を背景に、直売所の広がりに見られるように、地域の農林水産物を地域内で流通させようという取り組みが全国的に広がっています。

物流・情報の国際化の流れの中で、地域循環型の地域経済と産業を振興していくことは、地域を守るうえで大事な取り組みです。

以上の趣旨から、貴議会において「地産地消自治体宣言」を決議し、生産者と消費者の交流・相互理解、地域生産物の利用・提供の拡大を推進していただこうようお願いいたします。

採択にいたらなかった議会での討論では、農協を巻き込むなど、もっと広がりを持つべきだといった主張がなされたと伝わっています。

いっぽう、いち早く採択したのが高萩市議会。その決議を下記に紹介して敬意を表するものです。

この高萩市の、ある若い市議さんが、たまたま陳情の提出者代表である根本さんと会ったさいに、声をかけてくれたそうです。そして、「高萩市議会では陳情を採択しました。これから地産地消をすすめるために具体化をはかっていきます」と決意を語っていたとか。

多くの議会のように、いわば成り行きまちで採択を見送る判断も一つの

### 豊かな食生活と地域産業の活性化を目指す「地産地消」推進高萩市宣言に関する決議

自然環境や地理的条件に恵まれた高萩市では、四季折々に豊かな農林水産物が生産されます。

地元で生産された食べ物を地元で消費する取り組みは、地域経済の活性化を図るとともに、地域住民の豊かな食生活を実現し、また、地域の農林水産業や食文化への住民の理解を深め、新しい文化創造とより良い地域社会づくりにもつながる取り組みです。

高萩市は、地域の農林水産物を地域の住民に届ける「地産地消」の創造的推進を期し、ここに「地産地消自治体」を宣言します。

以上、ここに決議する。

平成 17 年 6 月 22 日

高萩市議会

## ショウガのこんな利用法

いよいよ風邪の季節。中郷町のOさんから、ショウガの利用法の一工夫について教えてもらいました。でも、説明写真が追いつかないので、つづきは来週に(^^);



ショウガをすり下ろします。



薄く広げて、ラップに包みます。